

令和3年度 さいたま市外部評価委員会（第1回）

次第

日時 令和3年7月12日（月）

14時～

場所 ときわ会館 5階 501会議室

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 挨拶
- 4 委員自己紹介
- 5 委員長、副委員長及び委員長職務代理者の選出
- 6 議題
 - (1) さいたま市外部評価委員会の趣旨・進め方
 - (2) さいたま市総合振興計画の施策体系について
 - (3) 『健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現』の施策体系について
 - (4) 事業に関する意見交換
 - 1) （教育・文化・スポーツ①）サッカーのまちづくりの推進
- 7 閉会

〔 配付資料 〕

- 資料1 さいたま市外部評価委員会設置要綱
資料2 さいたま市外部評価委員会委員名簿
資料3 さいたま市外部評価委員会席次表
資料4 さいたま市外部評価委員会の趣旨・進め方
資料5 さいたま市総合振興計画の施策体系
資料6 『健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現』の施策体系図
資料7 「(教育・文化・スポーツ①) サッカーのまちづくりの推進」に関する資料
7-1 事業の説明シート 7-2 事業評価シート 7-3 意見出し用ワークシート

さいたま市外部評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 さいたま市総合振興計画後期基本計画実施計画、しあわせ倍増プラン2017、さいたま市成長加速化戦略及びさいたま市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲載された施策及び事業に関する進捗度及び成果等について意見を聴取するため、さいたま市外部評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員20人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 識見を有する者
- (2) 関係団体の代表者
- (3) 市民
- (4) 前3号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(任期)

第3条 委員の任期は、委嘱の日からその日の属する年度の末日までとする。

2 委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長、副委員長及び職務代理者)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、委員会の会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 委員会に副委員長を置き、委員長の指名により選出する。
- 4 副委員長は、委員会の進行にあたり、委員長を補佐する。
- 5 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する副委員長がその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。
- 3 委員会の会議は、原則として公開とする。

(委員の代理)

第6条 委員長は、委員がやむを得ない事情により委員会に出席することができないときは、その代理の者（以下「代理者」という。）を出席させることができる。

2 代理者は、委員と同一の機関・団体に属する者で、当該委員が指名するものとする。

3 代理者が委員会に出席した場合は、当該代理者を委員とみなす。

（庶務）

第7条 委員会の庶務は、都市戦略本部都市経営戦略部において処理する。

（その他）

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

（施行日）

1 この要綱は、平成30年5月2日から施行する。

（さいたま市まち・ひと・しごと創生有識者懇談会設置要綱の廃止）

2 さいたま市まち・ひと・しごと創生有識者懇談会設置要綱（平成28年6月30日都市戦略本部長決裁）は、廃止する。

（施行日）

1 この要綱は、平成30年6月21日から施行する。

（施行日）

1 この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

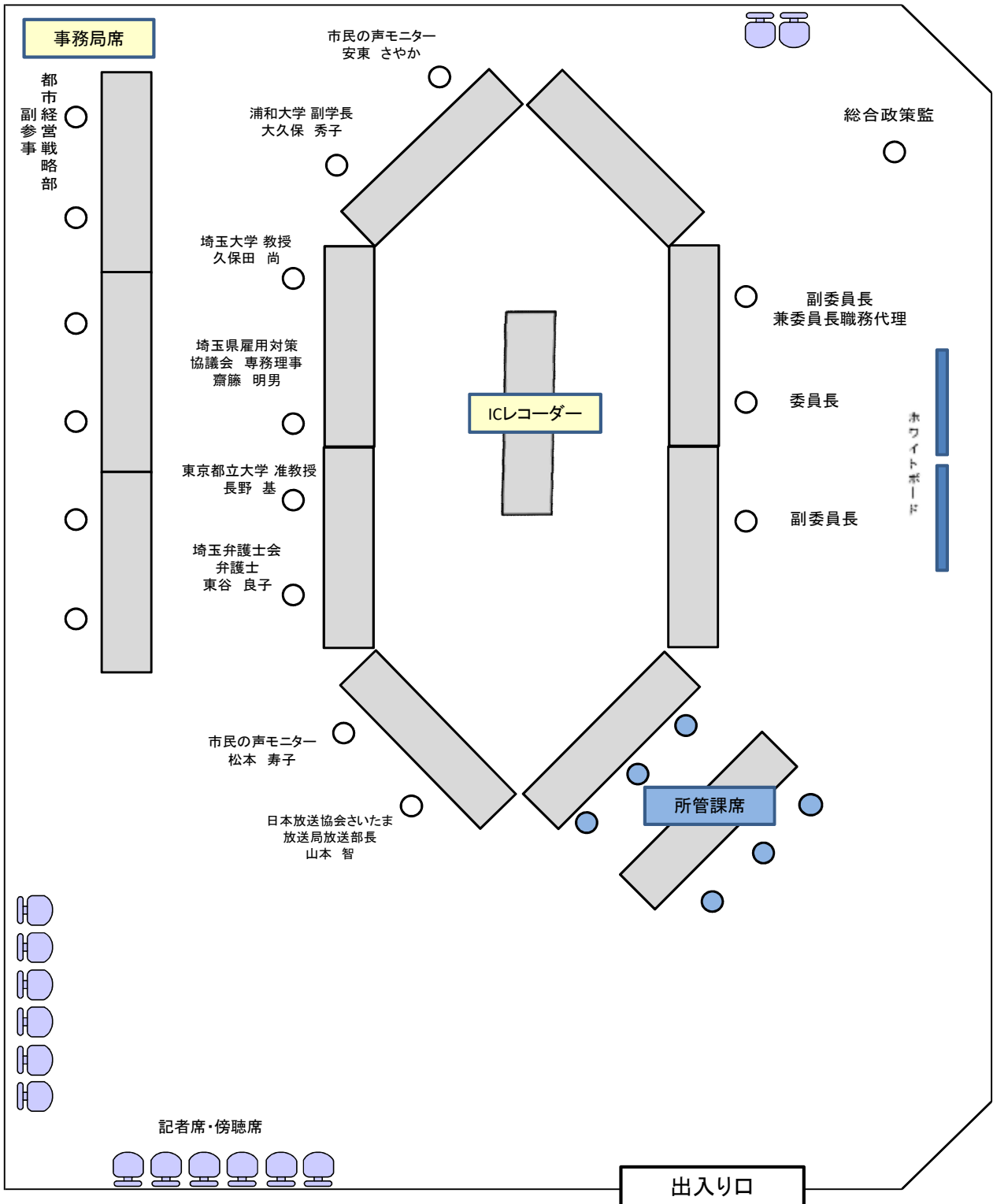
令和3年度 さいたま市外部評価委員会 委員等名簿

(敬称略、五十音順)

氏名	団体名・職等	
安東 さやか	市民の声モニター	
大久保 秀子	浦和大学副学長	
海津 義和	国土交通省関東地方整備局企画部事業調整官	御欠席
久保田 尚	埼玉大学教授	
黒金 英明	さいたま商工会議所理事・事務局長	御欠席
齋藤 明男	埼玉県雇用対策協議会専務理事	
辻 仁成	株式会社埼玉りそな銀行さいたま営業部営業第二部長	御欠席
長野 基	東京都立大学准教授	
東谷 良子	埼玉弁護士会弁護士	
松本 寿子	市民の声モニター	
山本 智	日本放送協会さいたま放送局放送部長	

【事務局】

総合政策監		岡田 暁 人
都市経営戦略部	副参事	大熊 裕 史
同	主幹	高橋 格
同	主査	島村 友梨
同	主査	井口 保宏
同	主任	松尾 真二
同	主任	森山 豪也



委員会の趣旨

◆名称

さいたま市外部評価委員会

◆目的

さいたま市の施策及び事業における進捗度及び成果等について意見を聴取すること

◆構成

名簿のとおり(11名)

議題と開催予定

1 委員会の議題

1 事業・事業群の外部評価

- ※次の観点から事業・事業群を選定
- ・進捗の遅れが見られる「成果指標」に関連する事業・事業群
 - ・過去扱っていない分野別事業

2 国の地方創生推進交付金を活用している事業の外部評価

3 新しい総合振興計画における外部評価に関する意見交換

2 開催予定

	日時	内容	テーマ
第1回	7月12日(月) 14時～16時	①	➤ 【事業】サッカーのまちづくりの推進
第2回	7月27日(火) 9時30分～12時	①	➤ 【事業】女子スポーツ支援事業 ➤ 【事業群】健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現
第3回	8月6日(金) 13時30分～16時	② ③	➤ 【事業】東日本広域連携事業 ➤ 【事業】東日本連携拠点を核にしたビジネス交流の促進 ➤ 新しい総合振興計画における外部評価に関する意見交換

事業と事業群の評価の観点（例）

対象事業（その選定根拠）	外部評価の方法
対象事業 a（進捗の遅れのある成果指標から選定）	事業のコマと事業群のコマを実施
対象事業 b（国の交付金を活用している事業）	事業のコマのみを実施

1

事業のコマ

（個別の事業を評価する）

（1事業につき1コマ）

例えば…

- ☑ 事業の目標指標は適切か
- ☑ 事業ターゲットが施策の目指す方向性からずれていないか
- ☑ 事業の進め方は適切か
- ☑ 事業をより良くするための方策（アイデア）はあるか

2

事業群のコマ

（事業群を評価する）

（1事業群につき1コマ）

例えば…

- ☑ 事業の数・内容は適切か
- ☑ 事業の重複はないか
- ☑ 事業群として成果指標の達成へ結びつくか
- ☑ 施策の成果指標を達成するための新たなアプローチはあるか

いずれの場合も、
事業により達成・実現しようとしている
施策の【目指す方向性】や【成果指標】を意識

各コマの進め方（事業のコマ）

（1）事業所管課による、対象事業の説明 5分

（2）問題点と解決案について、意見の書き出し

1）問題点についての意見出し 20分

付箋記入→発表→まとめ（意見のグループ分け）

2）解決策についての意見出し 20分

付箋記入→発表→まとめ（意見のグループ分け）

（3）出された意見についての意見交換・まとめ 20分

※委員の皆様から事前にいただいたご質問については、
質問回答一覧表（資料8）として机上に配布しております。

1

外部評価の実施（委員会開催）

- 対象事業
 - a 進捗の遅れが見られる「成果指標」に関連する事業・事業群（第1回～第2回）
 - b 国の地方創生推進交付金を活用している事業（第3回）

- 個別の事業を評価する『事業のコマ』と、事業群を評価する『事業群のコマ』を実施
※国の交付金を活用している事業については、『事業のコマ』のみを実施

2

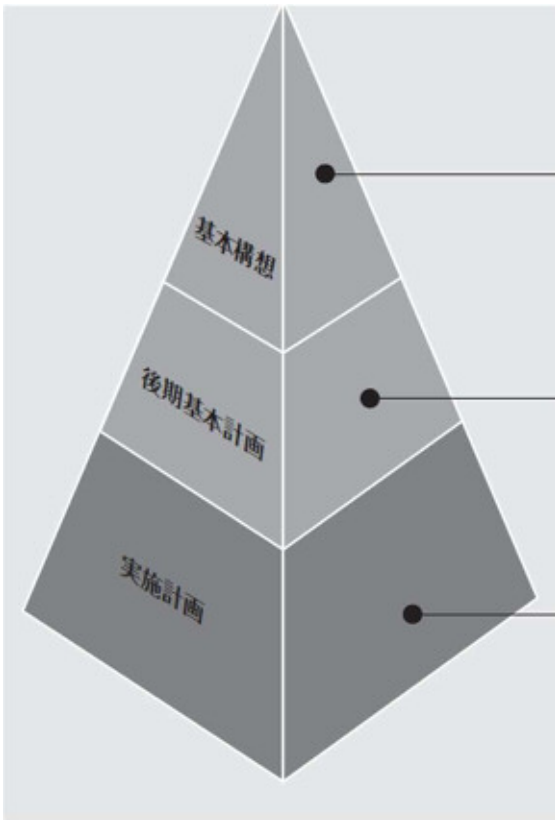
報告書の作成（事務局とりまとめ）

委員会の意見を外部評価の結果として報告書にとりまとめ

3

事業改善や計画見直し

さいたま市総合振興計画の施策体系①



基本構想

まちづくりの基本的な理念、目指すべき将来都市像や行政施策の大綱を示すもの。目標年次は、令和2年度（2020年度）。

後期基本計画

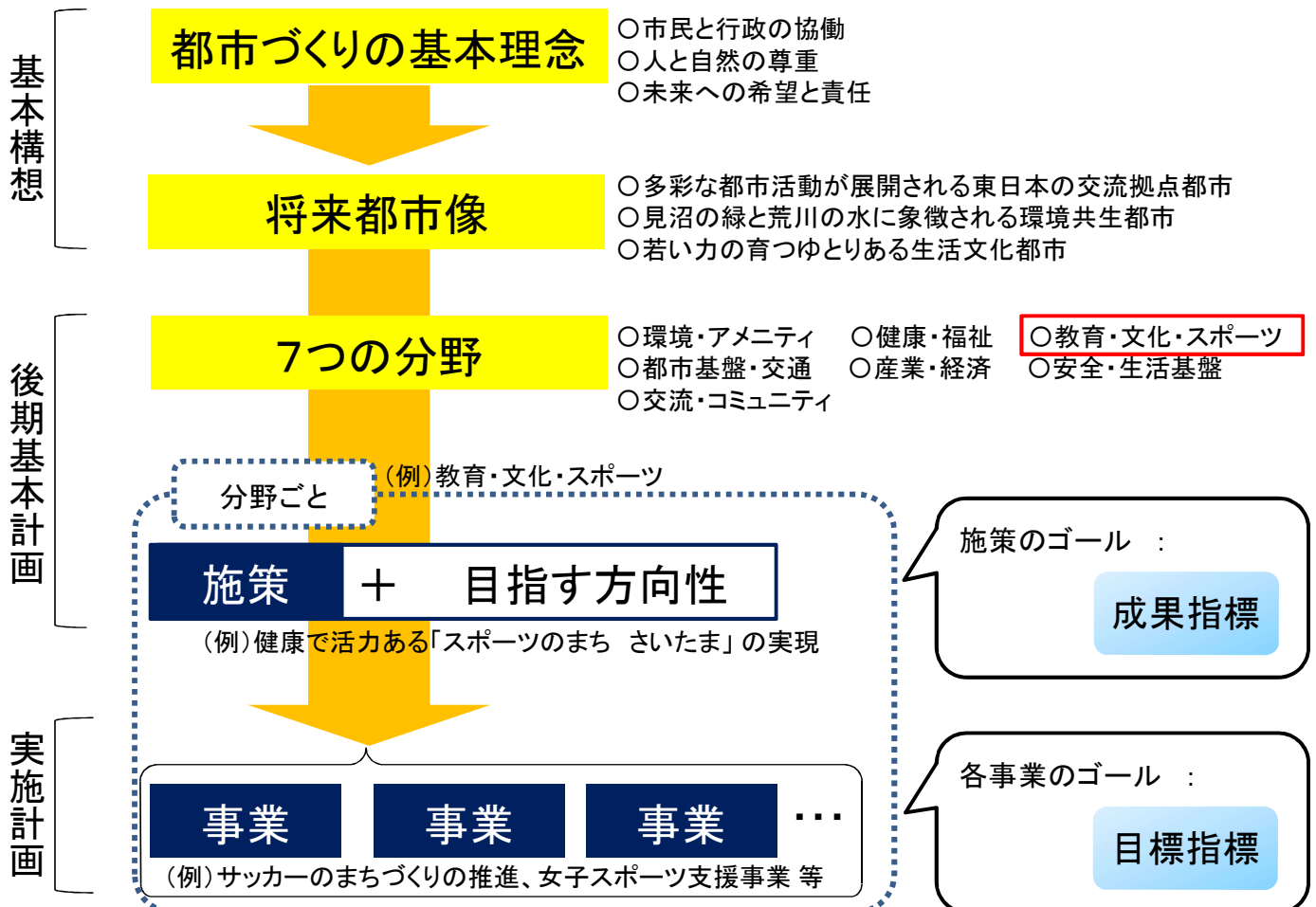
基本構想に基づき、各行政分野における施策を総合的、体系的に示すもの。計画期間は平成26年度（2014年度）～令和2年度（2020年度）までの7年間。

実施計画

基本計画に定められた施策を展開するため、個別の実施計画事業を定めるもの。計画期間は平成30年度（2018年度）～令和2年度（2020年度）までの3年間。

令和3年度（2021年度）からは、新たな総合振興計画（基本計画・実施計画）がスタートしています。

さいたま市総合振興計画の施策体系②



＜さいたま市外部評価委員会（第1回）＞ 教育・文化・スポーツの分野『健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現』施策体系図

◇進捗の遅れの見られる成果指標「本市を「スポーツが盛んなまち」とイメージする市民の割合」に関連する事業を、評価対象とする。

施策の背景	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツは、体力の向上、生活習慣病の予防、精神的な充足感の獲得、青少年の健全な育成等に資するもので、健やかで心豊かな生活を営む上で極めて重要なものです。 ●本市には、サッカーワールドカップをはじめとした大規模スポーツイベントの開催実績などがあり、令和2（2020）年の東京・オリンピックパラリンピックについてもサッカー競技会場の候補地となっています。また、スポーツ関連活動を行う人や団体も多く、様々なスポーツ施設もあります。これら他市にないスポーツ財産・スポーツ文化を活用して、生涯スポーツの振興に引き続き取り組んでいく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民意識調査等の結果を見ても、本市におけるスポーツのイメージや施策の市民満足度は比較的高く、市民のスポーツ実施率は増加傾向にあります。一方で、多くの市民が運動不足や、気軽にスポーツのできる場所・施設が少ないと感じている、またスポーツ施設の老朽化が進んでいるなど、課題も少なくありません。 ●このような背景のもと、平成22（2010）年4月に「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」を施行し、さらに平成23年（2011）年7月には、本条例に基づき、スポーツと市の教育、文化、環境、経済、福祉、都市計画等の広範な分野において、市民、関係団体、事業者、行政など各主体が連携を図るための方向性を定めた「さいたま市スポーツ振興まちづくり計画」を策定して、健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現を目指していきます。
-------	--	--

施策	健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現
十 目指す 方向性	「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに関わることができる機会を増やすとともに、まちづくりの広範な分野において、市民、関係団体、事業者、行政など各主体が連携を強化することにより、生涯スポーツの振興及びスポーツを活用した総合的なまちづくりを推進します。

成果指標	★本市を「スポーツが盛んなまち」とイメージする市民の割合	児童・生徒の週1回以上のスポーツ実施率 (学校の体育の授業を除く。)	成人の週1回以上のスポーツ実施率																		
	<table border="1"> <tr> <th>平成25年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和2年度目標</th> </tr> <tr> <td>44.7%</td> <td>26.7%</td> <td>60%以上</td> </tr> </table>	平成25年度	令和2年度	令和2年度目標	44.7%	26.7%	60%以上	<table border="1"> <tr> <th>平成25年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和2年度目標</th> </tr> <tr> <td>小5 84.2% 中2 84.5%</td> <td>小5 84.1% 中2 80.9%</td> <td>小5 93% 中2 93%</td> </tr> </table>	平成25年度	令和2年度	令和2年度目標	小5 84.2% 中2 84.5%	小5 84.1% 中2 80.9%	小5 93% 中2 93%	<table border="1"> <tr> <th>平成25年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和2年度目標</th> </tr> <tr> <td>48.3%</td> <td>64.6%</td> <td>70.00%</td> </tr> </table>	平成25年度	令和2年度	令和2年度目標	48.3%	64.6%	70.00%
平成25年度	令和2年度	令和2年度目標																			
44.7%	26.7%	60%以上																			
平成25年度	令和2年度	令和2年度目標																			
小5 84.2% 中2 84.5%	小5 84.1% 中2 80.9%	小5 93% 中2 93%																			
平成25年度	令和2年度	令和2年度目標																			
48.3%	64.6%	70.00%																			

事業①	サッカーのまちづくりの推進	達成度 C コロナ影響有			
<p>本市の伝統あるサッカーを核としたスポーツのまちづくりを推進するために、「サッカーのまち さいたま」にふさわしい、さいたまシティカップを隔年開催するとともに、海外強豪クラブチームを招聘し、国際親善試合の開催を推進します。</p> <p>また、浦和レッズ・大宮アルディージャの支援やレリーフの設置のほか、高校選抜サッカー選手団の海外派遣、サッカー教室の開催、サッカー人材の育成などの諸事業を展開します。</p>					
目標指標	<table border="1"> <tr> <td>スタジアム 収容率</td> <td>レッズ・アルディ ージャレリーフ 設置数</td> <td>高校選抜サッカ ー選手団の海外 派遣数</td> </tr> </table>	スタジアム 収容率	レッズ・アルディ ージャレリーフ 設置数	高校選抜サッカ ー選手団の海外 派遣数	
スタジアム 収容率	レッズ・アルディ ージャレリーフ 設置数	高校選抜サッカ ー選手団の海外 派遣数			
事業②	女子スポーツ支援事業	達成度 C コロナ影響有			
<p>女子スポーツの競技力向上を図り、スポーツのまちづくりを推進するために、市内の女子小中学生を対象として、サッカー、野球を始めとしたスポーツで、プロ・アマトップスポーツチームの選手・コーチ等から指導を受けられる機会を提供する「ステップアップセミナー」を開催します。</p> <p>また、現在行っている女子中学生サッカー大会「SAITAMA GIRLS MATCH」を拡大し、女子の中学生世代を対象とした全国レベルの大会を開催することにより、浦和駒場スタジアムの女子サッカーの聖地化を図り、「サッカーのまち さいたま」のイメージを向上させます。</p>					
目標指標	<table border="1"> <tr> <td>ステップアップ セミナー参加者数</td> <td>「SAITAMA GIRLS MATCH」参加チーム数</td> <td>「SAITAMA GIRLS MATCH」参加者数</td> </tr> </table>	ステップアップ セミナー参加者数	「SAITAMA GIRLS MATCH」参加チーム数	「SAITAMA GIRLS MATCH」参加者数	
ステップアップ セミナー参加者数	「SAITAMA GIRLS MATCH」参加チーム数	「SAITAMA GIRLS MATCH」参加者数			

関連事業	★：「本市を「スポーツが盛んなまち」とイメージする市民の割合」に紐づく事業							
★スポーツ施設の拡充とスポーツシュレの整備	★国際スポーツイベント等の開催支援事業	★次世代型スポーツ施設の誘致・整備	★スポーツ振興基金を活用した選手の競技力向上	★ラグビーワールドカップ2019公認チームキャンプ地整備事業	★さいたまクリテリウムの民間移行	★オリンピック・パラリンピック競技大会支援事業	★さいたま国際マラソン開催事業	総合型地域スポーツクラブ支援事業
市民の体力向上及び健康増進を図り、東京2020大会への気運醸成を高めるために、気軽にスポーツを楽しむことができる「スポーツもできる多目的広場」等のスポーツ施設を拡充するとともに、新たな交流を創出するスポーツ拠点として「(仮称)さいたまスポーツシュレ」を整備し、スポーツ大会、合宿等を誘致します。	スポーツを通じた交流人口を増やし、スポーツ振興と地域経済の活性化を図るために、海外のチームや選手が出場する、日本一を決定する又はプロによる、スポーツイベント、大会及び試合の開催支援を行います。	国際観光都市及び国際スポーツタウンとしての都市間競争力の強化を図るために、従来の市民利用を目的として設置された体育施設とは異なる、スポーツ観戦やイベント開催による採算を重視した、安定的な運営が可能で行政の負担の少ない次世代型スポーツ施設を誘致します。	本市のスポーツ振興及びスポーツに関する市民意識の醸成を図るために、スポーツ振興基金の活用により、パラリンピックの出場を目指す選手の競技力向上や小中学生スポーツ選手の競技力向上を図ります。また、民間企業等への寄付の呼び掛けを行い、基金の財源拡充を図ります。	本市のスポーツ振興及びスポーツに関する市民意識の醸成を図り、本市の都市イメージを国内外に発信するために、令和元年度に開催されるラグビーワールドカップ2019 TM 大会に向けて、世界のトップチームを受け入れるための公認チームキャンプ地を整備します。	「スポーツのまち さいたま」の実現及び自転車を活用したまちづくりの推進のために、ツール・ド・フランスの名を冠した国際自転車競技大会について、令和元年度以降、大会の実施主体を民間団体等へ移行し、本市の負担額の減少を図りながら、引き続き本市で開催していきます。	オリンピック・パラリンピックの競技種目や東京2020大会自体に対する市民の関心・理解を高めるために、さいたまスポーツフェスティバルを開催し、オリンピック・パラリンピック競技を中心とする各種スポーツを、市民に照会するとともに体験してもらうことで、東京2020大会の気運醸成を図ります。また、大会期間中、本市を訪れる人々をもてなし、本市の魅力アピールするために、埼玉県とともに、ボランティア人材の確保に努めます。また、都市ボランティアの皆様に、ボランティア体験の機会を提供します。	「スポーツのまち さいたま」を実現するために、フルマラソンを中心とした市民マラソンとオリンピック等の女子マラソン代表選手選考レースを併せた「さいたま国際マラソン」を開催し、市民のスポーツに対する意欲・関心を高めるとともに本市の都市イメージを国内外に発信します。	市民の誰もが、個々のライフスタイルに応じて、生涯にわたり継続的にスポーツを親しめる環境を創出するために、地域のグラウンド・体育館・公民館などを利用し、地域住民が主体的な企画・運営を行う、総合型地域スポーツクラブについて、市民の認知度を高める情報発信などによる支援を行い、活動を促進する。

1 事業概要（背景・目的・事業費）

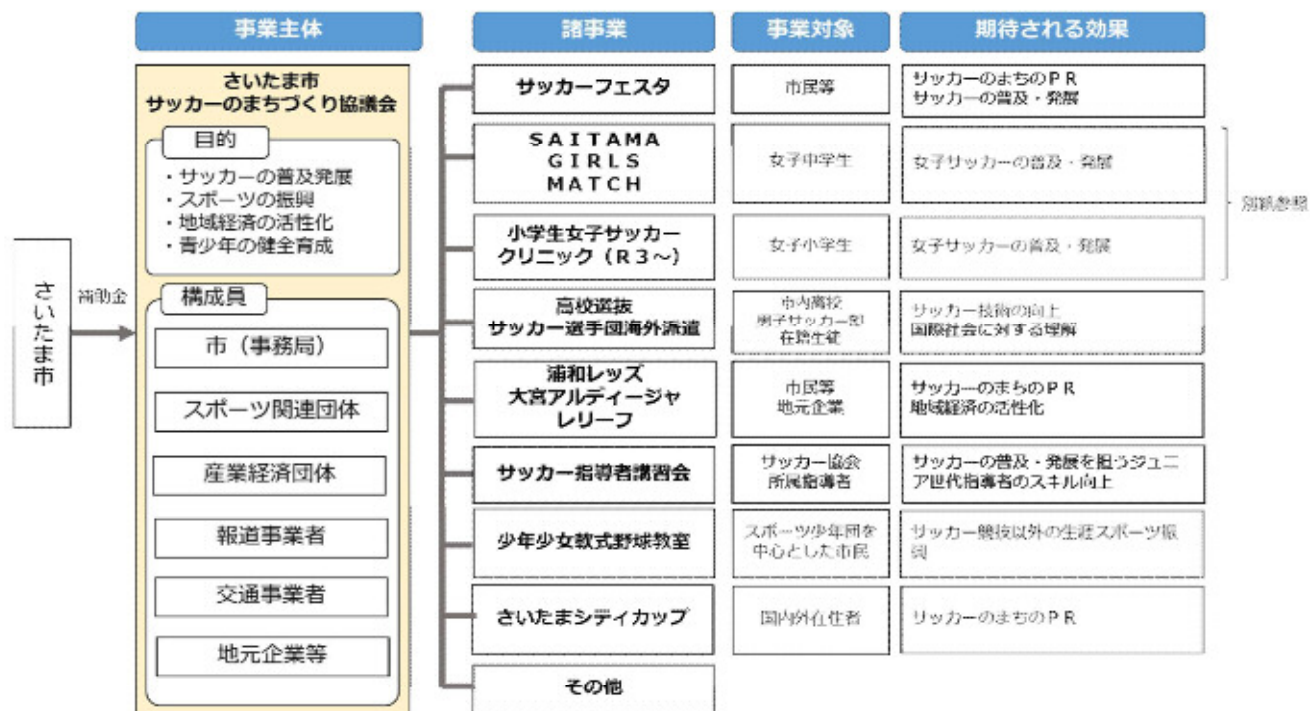
〔背景〕
 ○平成23年のスポーツ基本法施行に先行し、本市では、市民等の心身の健全な発達、明るく豊かな市民生活の形成及び活力ある市の実現に寄与することを目的に、平成22年に「スポーツ振興まちづくり条例」を制定した。条例において、全ての市民等が「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツにかかわることができる機会を増やし、並びに市の広範な分野において市民等、スポーツ関連団体、事業者及び行政が連携を強化することにより、生涯スポーツの振興及びスポーツを活用した総合的なまちづくりを推進し、健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現を目指すことを定めた。

○平成5年のJリーグのスタートを契機に、市民のサッカー熱を新しいまちづくりに活かし、サッカーの普及発展、スポーツの振興、地域経済の活性化、青少年の健全育成等を目的として、旧浦和市において「サッカーのまちづくり推進協議会」が発足し、現在においても、スポーツ関連団体、産業経済団体、報道事業者、交通事業者、地元企業等幅広い分野から、54団体が構成員となっている。

〔目的〕
 ○サッカーの普及発展及び地域スポーツの振興、地域経済の活性化等を促進し、サッカー及び生涯スポーツを活用したまちづくりを推進するため、さいたま市サッカーのまちづくり推進協議会を主体として諸事業を展開する。

事業名	R2 市補助額(円)	R1 市補助額(円)
さいたまサッカーフェスタ	0	300,440
SAITAMA GIRLS MATCH	0	1,000,000
さいたま市高校選抜サッカー選手団海外派遣	0	4,000,000
浦和レッズ・大宮アルディージャレリーフ	904,628	549,403
サッカー指導者講習会	50,440	30,950
少年少女軟式野球教室	0	103,512
さいたまシティカップ(隔年開催)	0	40,000,000
その他	401,048	452,756
合計	1,256,116	46,437,061

2 事業イメージ



3 具体的な事業内容

※SAITAMA GIRLS MATCH、小学生女子サッカークリニックは別紙参照

○サッカーフェスタ開催…サッカーを「する」「みる」「まなぶ」機会として、本市をホームタウンとする浦和レッズ・大宮アルディージャと共同で「サッカーのまち さいたま」を象徴するイベントを開催(H29~)

○高校選抜サッカー選手団海外派遣…企業・団体等から協賛を募り、市内の高校男子サッカー部に在籍する生徒を海外のサッカー先進国にスポーツ大使として派遣し、サッカー技術の向上や国際社会に対する理解等の人材育成を行う。(令和元年度協賛金実績:1,830千円)

○浦和レッズ・大宮アルディージャレリーフ設置…浦和駅西口伊勢丹浦和店前及び大宮駅東口大宮高島屋前に浦和レッズ・大宮アルディージャの選手等の功績を称えるレリーフを年1基程度設置する。

○サッカー指導者講習会開催…ジュニア世代の育成を行う指導者のスキル向上を図るため、協議会構成員であるサッカー協会所属指導者に対し講習会を行う。

○少年少女軟式野球教室開催…サッカー競技以外の生涯スポーツの振興のため、市内に練習場のある民間企業野球部に依頼し、協議会構成員であるスポーツ少年団所属の軟式野球チームをはじめとした市内小学生を対象に技術指導を行う

○さいたまシティカップ開催…「サッカーのまち さいたま」を国内外に発信することを目的に、海外強豪クラブチームを招へいし、本市をホームタウンとする浦和レッズ、大宮アルディージャとの国際親善試合等を実施(隔年開催)

4 事業の結果

事業	R2年度	R1年度
さいたまサッカーフェスタ	中止	1,198人(浦和駒場スタジアム)
SAITAMA GIRLS MATCH	中止	15チーム(2日間開催)
さいたま市高校選抜サッカー選手団海外派遣	中止	定員18人派遣(ドイツ)
浦和レッズ・大宮アルディージャレリーフ	2基設置 公開キャンペーン試行実施(SNSプレゼント企画・周辺店舗割引等企画)	2基設置 公開キャンペーン試行実施(SNSプレゼント企画・周辺店舗割引等企画)
サッカー指導者講習会	56人(オンライン開催)	52人
少年少女軟式野球教室	中止	146人(日本通運野球部による指導)
さいたまシティカップ(隔年開催)	-	入場者7,442人(スタジアム収容率47.71%) 大宮アルディージャvsクラブ・ナショナル・デ・フットボール

5 内部評価（成果指標への有効性・貢献度等）

〔有効性・貢献度〕
 ・多様な団体の協働や協力を得ながら協議会を主体として継続的に事業を実施することにより、「サッカーのまち」のイメージ、ひいてはスポーツの盛んなまちのイメージに寄与している。

〔事業の執行過程で判明した課題〕
 ・地域経済の活性化等の視点からの「サッカーを活用したまちづくり」に寄与する取組みが不足していたため、レリーフ設置事業において伊勢丹浦和店、大宮高島屋に協力いただき、公開キャンペーンを令和元年度より試行的に開始した。令和2年度は周辺の商業施設や駅周辺商店会にも声がけを行ったが、新型コロナウイルスの影響もあり、参加店舗は限定的であった(大型商業施設2施設、飲食店6店舗)。
 ・女子サッカーの普及発展に向けた事業について、現在実施している各事業に一体感を持たせ(別紙参照)、相乗的に効果を発揮する事業にしていく必要がある。

6 今後の方向性

○海外派遣、指導者講習会、軟式野球教室等について、サッカーを中心とした本市のスポーツ振興のため、新型コロナウイルス感染症対策に配慮するとともに、社会情勢等を踏まえ内容等を適宜更新しながら引き続き実施していく。

○レリーフ設置について、地域経済の活性化の視点を取り入れた「サッカーを活用したまちづくり」を推進するため、クラブや商店会、商業施設等と連携し、現在試行的に開始している公開キャンペーンを継続・発展させていく。

○女子サッカーの普及発展に向けた事業について、女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)が発足し、市内から2チーム参加することを契機とし、関係団体と連携を図りながら、SAITAMA GIRLS MATCHの大会価値の向上や、小学生女子サッカークリニック参加者数を徐々に増やしていく等、市内外的女子サッカーの活性化に向けて一体感を持って取り組んでいく(クリニック参加者数目標 令和7年度 130人)

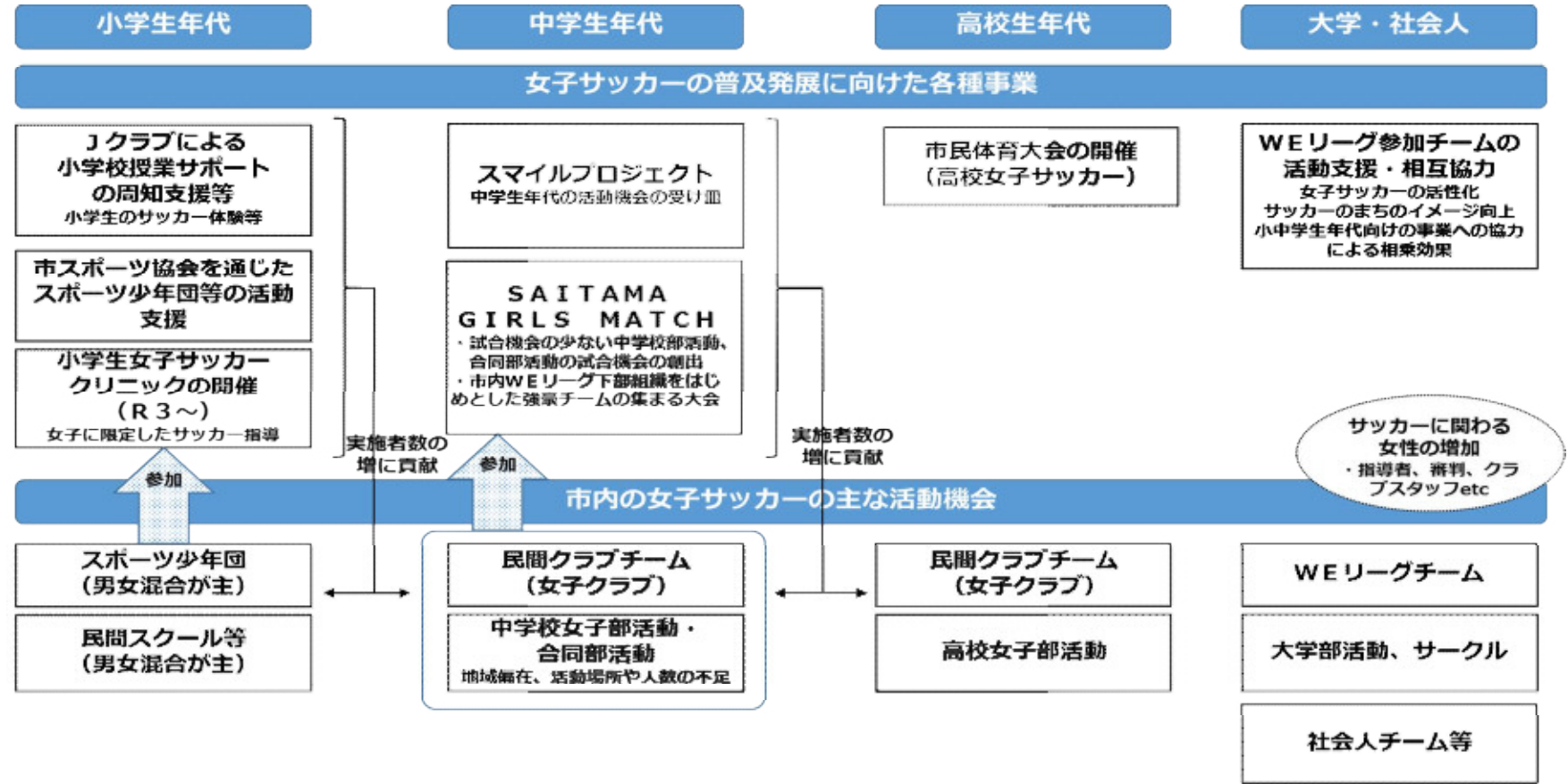
○市内にプロサッカーチームが男女計4チーム存在することとなる本市らしい取組として、浦和レッズ、大宮アルディージャと連携を図り、サッカーフェスタを「サッカーのまち さいたま」を象徴するイベントに引き上げるとともに、さいたまシティカップを定期的に開催し、当該イメージを国内外に発信していく(サッカーフェスタ参加者数目標 令和7年度 2,000人)。

※新計画(令和3年度~)でも、施策「スポーツと広範な分野の連携を通じた総合的なまちづくりの推進」の実現に向けた事業の一つとして、引き続き当該事業を掲載

令和3年度 さいたま市サッカーのまちづくり推進協議会委員名簿

区分	団体名	役職
1	スポーツ関係 公益財団法人 埼玉県サッカー協会	会長
2	さいたま市サッカー協会	副会長
3	さいたま市サッカー協会	副会長
4	公益財団法人 さいたま市スポーツ協会	会長
5	さいたま市スポーツ少年団	本部長
6	浦和レッドダイヤモンズ	代表取締役社長
7	大宮アルディージャ	代表取締役社長
8	一般社団法人 浦和レッズ後援会	代表理事
9	アルディージャ後援会	理事長
10	(一社) さいたまスポーツコミッション	会長
11	産業経済関係 さいたま商工会議所	専務理事
12	公益社団法人 埼玉中央青年会議所	議案審査会議 副議長
13	浦和商店会連合会	会長
14	大宮商店街連合会	会長
15	与野商店会連合会	会長
16	岩槻商店会連合会	会長
17	報道関係 (株) ジェイコム埼玉・東日本	代表取締役社長
18	(株) エフエムナックファイブ	渉外部長
19	(株) レディオパワープロジェクト	ラジオパーソナリティ
20	(株) テレビ埼玉	スポーツ局長
21	(株) 埼玉新聞社	代表取締役社長
22	地元企業 (株) 三越伊勢丹 伊勢丹浦和店	執行役員浦和店長
23	(株) 高島屋 大宮店	店長
24	東日本電信電話(株) 埼玉事業部	取締役埼玉事業部長
25	東京ガス(株) 埼玉支社	支社長
26	東京電力パワーグリッド(株) 埼玉総支社	副総支社長
27	(株) 埼玉りそな銀行 さいたま営業部	営業第二部長
28	(株) 武蔵野銀行	地域サポート部長
29	埼玉縣信用金庫 浦和支店	理事支店長
30	交通関係 東日本旅客鉄道(株)	浦和駅長
31	東日本旅客鉄道(株)	大宮駅長
32	国際興業(株) さいたま東営業所	副所長
33	西武バス(株) 大宮営業所	所長
34	東武バスウエスト(株) 大宮営業事務所	所長
35	医療関係 さいたま市4医師会連絡協議会	議長
36	さいたま市歯科医師会	会長
37	(一社) さいたま市薬剤師会	会長
38	その他団体関係 さいたま市自治会連合会	会長
39	公益社団法人 さいたま観光国際協会	常務理事
40	大原サッカー場連絡協議会	会長
41	国立大学法人 埼玉大学	学長
42	ライオンズクラブ国際協会330-C地区2R1Z	ゾーンチーフ
43	ライオンズクラブ国際協会330-C地区2R2Z	ゾーンチーフ
44	ライオンズクラブ国際協会330-C地区3R1Z	ゾーンチーフ
45	ライオンズクラブ国際協会330-C地区3R2Z	ゾーンチーフ
46	国際ロータリー第2770地区第1グループ	ガバナー補佐
47	国際ロータリー第2770地区第2グループ	ガバナー補佐
48	国際ロータリー第2770地区第3グループ	ガバナー補佐
49	国際ロータリー第2770地区第4グループ	ガバナー補佐
50	市関係 さいたま市	市長
51	さいたま市教育委員会	教育長
52	さいたま市スポーツ文化局	局長
53	さいたま市スポーツ文化局スポーツ部	部長
54	さいたま市議会スポーツ振興議員連盟	会長

女子サッカーの普及発展に向けた事業 体系図



○小学生年代の取組

市内Jリーグクラブの実施するサッカーの普及活動や、少年団の活動支援を通じて、男女問わずサッカー実施者のすそ野を広げていくほか、令和3年度より、小学生女子サッカークリニックを開催し、男子に交じって活動している小学生女子や、サッカー経験の浅い小学生女子を集めて継続的に指導をすることで、女子サッカーの普及や競技力の向上を図り、中学生年代以降もサッカーを続けていくきっかけを提供する。

○中学生年代の取組

中学生になると、体格差等から男女の活動が分かれるが、中学校女子サッカー部が著しく少なく、中学生女子のサッカー活動機会が不足している。令和元年度よりスマイルプロジェクトを実施し、その受け皿となるほか、初心者受入れも行い、すそ野を広げる取組を行う。また、SAITAMA GIRLS MATCHを開催し、中学校部活動等の試合機会の創出を行うと同時に、市内WEリーグ下部組織と協力し、同大会を強豪チームの集まる価値の高い大会に引き上げていくことで、市内全体的女子サッカーを盛り上げていく。

○連携について

市サッカー協会をはじめ、WEリーグチーム・クラブやJFA等と連携しながら実施することにより、一体感のある取組みとし、事業の効果を高めていく。また、女子サッカー人口が増えることや、プロサッカーに関わる女性の露出が増えることにより、職業等でサッカーに関わる女性の増加にも長期的な目線で貢献していく。

(例) 小学生女子サッカークリニックとスマイルプロジェクトの活動連携、同事業へのクラブの協力

SAITAMA GIRLS MATCHへのJFAの協力による他地域の合同部活動等の誘致、WEリーグ選手の参加等

[教育・スポーツ・文化①] 令和2年度 事業評価シート

基本情報									
事業コード・事業名	総振	3308	サッカーのまちづくりの推進						
関連計画コード	倍増	—	成長	—	総合戦略	21201	—	再掲	—

施策情報				
分野・節	教育・文化・スポーツの分野 健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現			
目指す方向性	「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに関わることができる機会を増やすとともに、まちづくりの広範な分野において、市民、関係団体、事業者、行政など各主体が連携を強化することにより、生涯スポーツの振興及びスポーツを活用した総合的なまちづくりを推進します。			
成果指標	指標項目	平成25年度	令和2年度	令和2年度(目標)
	本市を「スポーツが盛んなまち」とイメージする市民の割合	44.7%	26.7%	60%
施策展開	スポーツを活用した総合的なまちづくり			
	—			
	—			

Plan(計画)					
事業課 (左上欄:とりまとめ課)	スポーツ振興課	—	—	—	
事業の対象	市民、スポーツ関連団体、民間事業者				
事業の目的	行政と市民、スポーツ関連団体、民間事業者が一体となって、サッカーを核としたスポーツのまちづくりを推進すること。				
事業の内容	サッカーのまちづくり推進協議会を主体として、諸事業を展開				
令和2年度の取組内容 (計画時点)	①レリーフの設置 ②高校選抜サッカー選手団の海外派遣 ③サッカー指導者講習会の開催 ④少年少女軟式野球教室の開催				
令和2年度	当初予算額(円)【前年度繰越額を含む】	割合	決算額(円)【翌年度繰越額を除く】	割合	
事業費<A>	4,839,000	100%	855,068	100%	
財源内訳	一般財源	4,839,000	100.0%	855,068	100.0%
	国・県支出金	0	0.0%	0	0.0%
	地方債	0	0.0%	0	0.0%
	その他特定財源	0	0.0%	0	0.0%
事業に関連する民間資金	—				
概算人件費(円) 	※人工 (0.56 人) × 職員1人当たりの人件費		4,695,040		
総コスト(円) <A+B>			5,550,108		

Do(結果)						
令和2年度の事業の達成度	C コロナ影響有	令和2年度の取組実績 (未実施・未達成の目標指標がある場合はその要因分析)	【実績】レリーフの設置(浦和レッズ1基、大宮アルディージャ1基)、サッカー指導者講習会の開催(オンラインセミナー) 【未実施・未達成の目標指標】高校選抜サッカー選手団の海外派遣の実施、少年少女軟式野球教室の開催 については、新型コロナウイルスの影響により事業が実施できませんでした。			
事業としての目標指標	達成度	分類	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(評価年度)
① スタジアム収容率	—	目標		—	60%	—
		実績	53.23% (平成28年度)	—	47.71%	—
		改定情報		—	—	—
② レッズ・アルディージャレリーフ設置数	B	目標		2件	2件	2件
		実績	3件	2件	2件	2件
		改定情報		—	—	—

③	高校選抜サッカー選手団の海外派遣数	C	目標		1件	1件	1件
		コロナ影響有	実績	1件	1件	1件	0件
			改定情報		—	—	—

Check(評価)			
事業を取り巻く外部要因の変化	定量的変化	—	
	定性的変化	新型コロナウイルスの影響により、海外への渡航はもとより、多くの人を集めた事業の実施が困難となっています。	
前年度に計画したAction(改善)に対する取組結果	計画内容	さいたまシティカップの開催に向け、大会の魅力を広く伝えることができるよう更なるPR方法を検討し、積極的な情報発信を行っていきます。	
	取組結果	新型コロナウイルスの影響により、国際的なサッカー大会の日程が2021年に延期となりシティカップの開催調整が困難なことから、今後について積極的な情報発信を行う段階になかった。	
事業の項目別評価	評価区分	評価理由	
	①組織連携・PPP・協働 (事業を進めるうえで、他課、他団体、市民等と連携しているか)	I 連携している II 取組が不足している I	浦和レッズ・大宮アルディージャのレリーフ設置にあたっては、両クラブ及び両クラブ後援会、公益社団法人さいたま観光国際協会、株式会社三越伊勢丹 伊勢丹浦和店、株式会社高島屋大宮店からの協賛や協力をいただいています。
	②効率性 (事業の費用対効果を高めるための取組を行っているか)	I 取組を行っている II 取組が不足している I	浦和レッズ・大宮アルディージャのレリーフ設置事業について、周辺の商業店舗と協力し割引等の周知キャンペーンを2週間程度実施することにより、設置の目的である「サッカーを活用したまちづくり」のコンセプトを強調している。
③広報・周知活動等の結果 (事業を知ってもらうための広報、営業活動等により対象者にアプローチできているか)	I アプローチできている II アプローチが不足している I	浦和レッズ・大宮アルディージャのレリーフ設置事業について、事業をより多くの方に周知するため、市の事業費を使用せず新たに周辺の商業店舗と協力し割引等の周知キャンペーンを2週間程度実施したほか、クラブと協力しSNSを活用した周知キャンペーンを実施しました。	
施策(成果指標)への貢献度 事業の取組内容がどのように施策(成果指標)に寄与しているか	評価区分	評価理由	
	I 貢献している II 一定程度貢献している I	各事業をスポーツ関連団体、民間事業者と連携し実施することにより、本市を「スポーツが盛んなまち」とイメージする市民の増加に寄与していると考えます。	

Action(改善)		
改善内容と事業の方向性	改善する項目	改善内容
	① 組織連携・PPP・協働 ② 効率性 ③ 広報・周知活動等の結果	サッカーを核としてスポーツを活用したまちづくりを推進するため、レリーフ設置事業以外の事業でも組織連携等の取組を進めていく。
		改善理由
	①②③	レリーフ設置事業については、他団体との連携が進んでいることから、よりサッカーを普及させるための諸事業についても積極的に展開していく必要があるため。
	事業の方向性	
		サッカーのまちづくりの更なる推進を図る取組の実施を目指します。

総合振興計画 後期実施計画(計画期間:平成30年度~令和2年度)の実施状況に対する評価			
計画期間の事業の達成度	最終目標	実績	達成度
C コロナ影響有	目標指標①	令和元年度に60%	C
	目標指標②	令和2年度までの3年間の累計で6件	B
	目標指標③	令和2年度までの3年間の累計で3件	C コロナ影響有
	目標指標④	—	—
	目標指標⑤	—	—
	目標指標⑥	—	—

[教育・スポーツ・文化①] サッカーのまちづくりの推進

施策	健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現
十 目指す 方向性	「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに関わることができる機会を増やすとともに、まちづくりの広範な分野において、市民、関係団体、事業者、行政など各主体が連携を強化することにより、生涯スポーツの振興及びスポーツを活用した総合的なまちづくりを推進します。

成果指標

本市を「スポーツが盛んなまち」とイメージする市民の割合

主な論点

本市らしいサッカーのまちづくりに向けた、「サッカーのまちづくり協議会」を主体とする諸事業の展開・進め方について
※新計画（令和3年度～）でも、施策「スポーツと広範な分野の連携を通じた総合的なまちづくりの推進」の実現に向けた事業の一つとして、引き続き当該事業を掲載

事業	サッカーのまちづくりの推進
-----------	---------------

	① 現状認識	② 目的・対象・目標指標の設定	③ 取組	④ 成果指標への貢献度
事業の プロフィール	<p>〔背景〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成22年に制定した「スポーツ振興まちづくり条例」において、生涯スポーツの振興及びスポーツを活用した総合的なまちづくりを推進し、健康で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現を目指すことを定めた。 ○平成5年のJリーグのスタートを契機に、市民のサッカー熱を新しいまちづくりに活かし、サッカーの普及発展、スポーツの振興、地域経済の活性化、青少年の健全育成等を目的として、旧浦和市において「サッカーのまちづくり推進協議会」が発足し、現在においても、スポーツ関連団体、産業経済団体、報道事業者、交通事業者、地元企業等幅広い分野の団体が構成員となっている。 	<p>〔目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行政と市民、スポーツ関連団体、民間事業者が一体となって、サッカーを核としたスポーツのまちづくりを推進すること。 <p>〔対象〕</p> <p>市民、スポーツ関連団体、民間事業者</p> <p>〔目標指標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スタジアム収容率 ② レッズ・アルディージャレリーフ設置 ③ 高校選抜サッカー選手団の海外派遣数 	<p>〔具体的な事業内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サッカーフェスタ開催…サッカーを「する」「みる」「まなぶ」機会として、本市をホームタウンとする浦和レッズ・大宮アルディージャと共同で「サッカーのまち さいたま」を象徴するイベントを開催 ○高校選抜サッカー選手団海外派遣…企業・団体等から協賛を募り、市内の高校男子サッカー部に在籍する生徒を海外のサッカー先進国にスポーツ大使として派遣し、サッカー技術の向上や国際社会に対する理解等の人材育成を行う。 ○浦和レッズ・大宮アルディージャレリーフ設置…浦和駅西口伊勢丹浦和店前及び大宮駅東口大宮高島屋前に浦和レッズ・大宮アルディージャの選手等の功績を称えるレリーフを年1基程度設置する。 ○サッカー指導者講習会開催…ジュニア世代の育成を行う指導者のスキル向上を図るため、協議会構成員であるサッカー協会所属指導者に対し講習会を行う。 ○少年少女軟式野球教室開催…サッカー競技以外の生涯スポーツの振興のため、市内に練習場のある民間企業野球部に依頼し、協議会構成員であるスポーツ少年団所属の軟式野球チームをはじめとした市内小学生を対象に技術指導を行う ○さいたまシティカップ開催…「サッカーのまち さいたま」を国内外に発信することを目的に、海外強豪クラブチームを招へいし、本市をホームタウンとする浦和レッズ、大宮アルディージャとの国際親善試合等を実施 ○OSAITAMA GIRLS MATCH 小学生女子サッカークリニック（R3～）…女子サッカーの普及発展に向けた取組を実施 	<p>〔成果指標への貢献度〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な団体の協働や協力を得ながら協議会を主体として継続的に事業を実施することにより、「サッカーのまち」のイメージ、ひいてはスポーツの盛んなまちのイメージに寄与している。
（観点）→	（現状分析、ニーズ把握）	（事業の方向づけ）	（取組内容、PR、連携・協働、効率化、その他の工夫）	—
問題点				<p>（事業群の回で実施）</p> <p>※個々の事業が成果指標や目指す方向性に向かっているかどうかについては、①～③の枠へ分類</p>
解決策				<p>（事業群の回で実施）</p> <p>※個々の事業が成果指標や目指す方向性に向かっているかどうかについては、①～③の枠へ分類</p>